

モノづくりの情熱感じて



木や金属を用いた作品約800点を展示・販売する「モノづくりの作品展」が7月1日

旭川クラフト普及協会（三浦忠司会長）の主催で、今年で2回目。旭川市とその近郊の木芸家ら会員15人が参加、食器や置物などの工芸品を展示する。担当者は「技術だけでなく、モノづくりにかける情熱や人間性を感じてもらいたい」と話す。日、祝日は作品づくりの実演もある。入場無料。7月31日までと8月23日、29日。



平成13年6月29日（2001年）北海道新聞
モノづくりの情熱を感じて

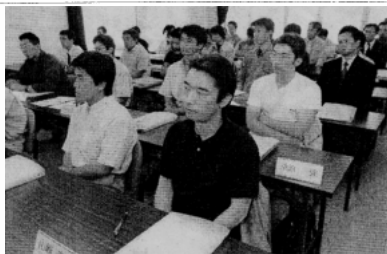
「家具のまち」再生の手で

旭川 経営塾開講、40人真剣

【旭川】主要地産物の家具業を育成する人材育成と、旭川家具工業協同組合（会長 理事長の「旭川家具経営塾」が23日、開講した。塾は市内の木工業の従事者や経営者ら千歳代から五十代までの四十人。来月三月まで毎月一回学び、「家具のまち」再生の担い手を目指す。

旭川その周辺の家具業は、約四百軒。現状を打破するため、同産業は、年間出荷額が二億に落ち込む厳しい状況に、旭川家具工業協同組合（会長 理事長の「旭川家具経営塾」が23日、開講した。塾は市内の木工業の従事者や経営者ら千歳代から五十代までの四十人。来月三月まで毎月一回学び、「家具のまち」再生の担い手を目指す。

旭川家具工業協同組合（会長 理事長の「旭川家具経営塾」が23日、開講した。塾は市内の木工業の従事者や経営者ら千歳代から五十代までの四十人。来月三月まで毎月一回学び、「家具のまち」再生の担い手を目指す。



真剣な表情で開講式に臨む旭川家具経営塾の塾生たち

平成13年6月24日（2001年）北海道新聞
「家具のまち」再生この手で

平成13年7月6・7日号（2001年）ライナーネットワーク
上川倉庫に広がる旭川工芸の世界

上川倉庫に広がる旭川工芸の世界

伝統美と機能性を両立

旭川を拠点に全国レベルで活動する工芸家らの団体、旭川工芸デザイン協会の作品展が上川倉庫のデザインギャラリーで開かれている。同協会は80年に発足。道内外でクラフト展を開催したり、著名作家を招いて講演会を開くなど、創作に力を入れている。今回の作品展は同協会の協会展示会のテーマ「和」をイメージした作品。各会員とも日本的な様式と機能性の高さを意識した作風を打ち出している。



旭川工芸デザイン協会展

展として毎年開かれているもの。今年10月サンフランシスコで開かれる初の海外展に向け、「和」をテーマに20人の会員が作品を出展。木の組み立て、特徴のある飾り、睡枕を思わせる金箔のアクセントなど、デザインと機能性を両立させながら、日本の伝統的な文化を前面に押し出している。このほか、テーマを定め、各会員の新作・横山木作家・小黒三郎さんによる組み木の小物などを展示。同協会事務局長の太谷泰久さんは「現在、海外展に向けて協会全体が盛り上がり、製作した作品をぜひ見てもらいたい」と話している。入場無料。15日まで。

旭川工芸市場



地元産の木を使った木工品を中心に、大小1000点以上の作品が並ぶ会場

実演や作家との交流も

か、作品を製作した作家が参加し、場内と交流はできる。開館は午前10時から午後6時まで。入場無料。

道内118の窯元が一堂に
体験コーナーも充実



とができる参加体験のコーナーも用意。

「自然にやさしく、人に優しく」をテーマにした「福川陶芸フェス」をティチバルが九月十五、十六日の二日間、センターにわたって、地産地消の振興と観光に力を入れる地域産業で開かれる。旭川やさきもの協会の主催。

道内窯元の陶芸品者々と、やさしく、のびやかな技術と底辺拡大を目標に毎年開花しているフェスをティチバルが、今年旭川市内・近郊でも、道内各地の日八の窯元、作家が一堂に集まり、作品を展示販売する。

両日とも会場では、作品展覧のほか、「ロク口実演」が行われるほか、来場者が実際に土に触れるこ

「開胃薬」に押入花加工を体験させたのは、むしろ押入花加工体験（参加料 個五百円）は、煎茶（特別価格）を使って押入花加工体験に特徴的なので、出来上がった作品はそそくで持ち帰ることができ、こちらも午前十時からと正午からの二回。

さらに、会場には飲食コーナーも設けられているので、軽食をつまみながらゆめくりと品定めができますようにしている。

開場は前日は午前十時からで、十五日は午後五時から、十六日は午後四時から、詳しくは事務局（☎0166-621485）まで。

平成13年9月号(2001年) メディアあさひかわ
9月15・16日に「旭川陶芸フェスティバル」

合板使用組建具生産

シツクハウス
症候群防止

接着剤少なめに

旭川の杏和

旭川の吉和（きよわ）建具、高木均長は、薄し板を張り合わせた板を使わず、切りしたままの、羅の板を使った建具の生産を格化させ、ドア等の建具はトド面から、板板を使うのが一般的だが、捉縮劑の量を抑えてシックハウス症候群の防止策をとりしることにした。同様の量を少量に抑えることはこれまでもあったが、本格的に張り出すのは旭川が初めてという。

この資料の系統は、板面が硬い「アカツツ材」選定にシ
部は、はめ込みにする
て、複層材の重量を
減らすのに役立って
いる。

検査員が管判「バルム
アルデ」が出た。天然
石のものを使用するな
ど、シツ・ハウスで厳格
防犯配置した。ドアな
ど建具のほか、壁掛け
家具や内蔵用板も掛け
る。

的・親睦を兼ね、これまで二十回分室を回ったが、顧客から好評のうちに、本格生産を始めた。

六月に入ってから工場を東旭川工業団地に移転、規模もはるかに拡張し生産体制を整えた。

今後、月三、四棟手拵けたいという。

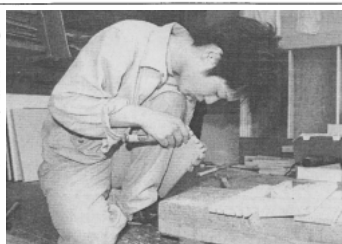
高木社長は「合板製に比べ、一・三割と親が、木

平成13年7月11日（2001年） 北海道新聞
合板使わぬ建材生産

東川の木村さん

旭川家具の誇りかけて……

職人五輪」上位目指す

[illegible]

でポイントを獲得したいところだ。

日本代表はここ二回
けて制限時間オーバー
失格となっている。本
が最大の課題」としな
らも、旭川家具のブラ

あさひかわ

10月に海外展開く「旭川工芸デザイン協会」

期待胸に作品搬出

染織、陶芸など1700点

【東京通信】本市をのさばるに
往々、アメリカの著名者あ
つてゐる川口三喜・阪倉
が今秋、初開演する海虎の旗本
作品が「日」東洋劇場の匠芝
草で、開演日を明かすラッパ
スに接して響出された。露の
国際バーは、歩を勢出すレタ
ンバーをは、期待をにまじ
り品を券出した。

に交際を始め、よりいっ
作品を出す中と誕生
した間髪も、今年で第
二回の日目。れきまで
成土のペーミ、年内の合
同展を断絶としたが、
今年は新しい知識人
といふ、会員の組織の
紹介こそがラッパン
展をよびグループ展を
企画した。

難表やマス表
送りの信約7年
を堂横め、本年
送リテナに確みに

同窓会の大谷友美
屋は、贈答手帳
市相預けで、会費
外人なからた
賜をいたたい。せ
成させに、し給

海外展への作品を運び出すデザイン協会のメンバーたち

福と賛助会員の二十一日
この日は、各工所で
制作したテーブルをいす
は十月四日から一月の
日程で現地の工芸品
「FUMI-KI」で開
れる。

平成13年 8月14日 (2001年) 北海道新聞
期待胸に作品搬出

平成13年9月4日（2001年） 北海道新聞
旭川家具の誇りかけて

旭川家具売り込め

横浜で見本市
初日 900 人入場



旭川市の近郊の家具メーカー「千三村」と三団体による「旭川家具横濱展2000」が、十七日から三日間日程で、横浜。百貨店や専門店の仕入れ担当者のほか一般客の来場が予想されている。旭川市の周辺は全開有数の家具産地だが、景引不況と安価な輸入商品の普及で、販路が落ち

された旭川家具展「パシフィコ横浜

首飾園では、千年前東京の歴史を物語るように、さまざまな展示が用意されている。中でも、江戸時代から明治時代にかけての、さまざまな生活品や、工芸品の展示が、目を引く。中でも、江戸時代から明治時代にかけての、さまざまな生活品や、工芸品の展示が、目を引く。中でも、江戸時代から明治時代にかけての、さまざまな生活品や、工芸品の展示が、目を引く。

平成13年10月18日（2001年） 北海道新聞
旭川家具売り込め

旭川家具をお手本に

マレーシアから家具製作を学ぶに
マレーシアから家具製作を学ぶに
マレーシアから家具製作を学ぶに



「家具製作をしっかりと学びたい」と話すイスマイルさん(左)

マレーシアから家具製作を学ぶに
マレーシアから家具製作を学ぶに
マレーシアから家具製作を学ぶに

は秋田県の木工場などを
見学し、八月末に帰国す
る。
和嶋昌幸助役が「短い
期間ですが頑張ってくだ
さい」と激励すると、イ
スマイルさんは「旭川で
何か一つでも自分のもの
にできるよう、しっかりと
学びたい」と意気込んで
いた。

木工、陶芸など力作 旭川クラフト展が開幕

旭川と近郊で活動する
工芸家の作品を集めた
「2002旭川クラフト
展」(実行委主催)が二
十九日、旭川市宮下通八



の旭川観光情報センター
で始まった。
七月三日に開幕する国
際家具デザインフェア2

002の関連イベントと
して、旭川工芸デザイン
協会などが三年に一度開
いており、今年で五回目。
一日まで。

工芸家の作品を一堂に
集めた「2002旭川
クラフト展」

同センターでの開催を皮
切りに、上川倉庫、旭川
空港、旭川家具センター
(いずれも七月三日から)
の四会場で、工芸家五十
人が木工、家具、陶芸、
染色などの作品を一堂に
展示、販売する。

旭川観光情報センター
には、小物を中心に十九
作家が出展。木の葉型の
コースターやコーヒー豆
をかたどったCDスタン
ド、靴べらなどの木工品
や陶器、ガラス製花器、
染め物など三百点が並ん
だ。入場無料。七月三十
一日まで。

平成14年 6月30日 (2002年) 北海道新聞
木工、陶芸など力作

4会場で地場産品の魅力紹介

2002旭川クラフト展始まる

地元で生産された工芸
品を広く知ってもらおう
と、旭川クラフト展(同
実行委員会主催)が六月
二十九日から、旭川観光
情報センターなど四会場
で開かれている。
今年で五回目を迎えた



この催しは、三年に一度
開催されている「国際家
具デザインフェア旭川」
の併催事業として行われ

創作活動している作家約
五十人の作品が展示され
ている。このうち、会場
の一つである旭川観光情
報センター(JR旭川駅
構内、七月三十一日まで)
には、約三百点が並び、
愛敬あるフクロウの顔を
形どったユニークな壁掛
け用の面、木目をデザイン
に生かした実用的な小
物入れ、滑車がついたウ
サギやイヌのおもちゃな
ど、いずれも個性あふれ
七目。

る作品ばかりが並び、訪
れた人たちはじっくり足
を止め楽しんでいる。
同実行委員会会長・早
見賢二さん(53)は、「ど
の作品も分業ではなく、
すべて制作者一人がアイ
デアを考え、作り上げて
いるオリジナルです。不
況によってクラフト業界
では、贈り物としての利
用が減っていますが、こ
の機会に多くの人に親し
んでもらえることができ
たら。また、注文家具の
ように、クラフトも要望
に応えて制作できること
をPRできたらいいです
ね」と話している。

平成14年 7月2日 (2002年) あさひかわ新聞
4会場で地場産品の魅力紹介 2002旭川クラフト展始まる

時流はシンプル省資源



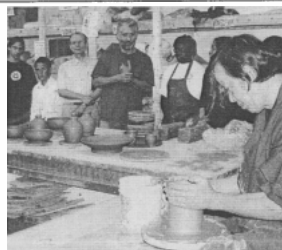
三日から旭川市役所で開催されている、三年に一度の家園の発展・国際交流をテーマにした「旭川2002」開催係主催。メインのテーマはデザインコンペの入賞・入選作品を展示してはデザインギャラリー（地下道一）には洗練された作品が並び、重厚長大な、から「群衆・省資源型」へ変わりつつある家園の国家的な流れも映し出している。（文・旭報通信 斎藤高広、写真・同 村木典之）

ゴールドリーフ賞
の「K」ノ「ート」
(右)と作者のイ
エンス・パールさ
ん

地場業界にも影響

[illegible]

平成14年7月6日(2002年) 北海道新聞
時流はシンプル・省資源

訪問団の
小木さん

陶芸の技披露し交流

さよならパーティーも

ノイヒン 28日赤木圖書「米国イリノイズ州
ブルーミントン、ノーマル市との姉妹都市
提携四十周年記念で同地を訪れている旭川
市の公式訪問団は現地時間の二十八日、陶
芸家の小木美則さんがノーマル市内で陶芸
の技を披露した。

[illegible]

平成14年7月29日（2002年） 北海道新聞
訪問団の小木さん 陶芸の技披露し交流

国際見本市に組合が初参加



長いすを持ちながら、イタリアのマスコミやデザイナーに旭川家具の特長を説明

[illegible]

旭川家具ミラノ発世界へ

丁寧な仕上げが評価 地元有力誌にも早くも登場

[illegible]

平成15年4月12日（2003年） 北海道新聞
旭川家具 ミラノ発世界へ

ミラノ発 世界へ

旭川家具の挑戦

「ミラノは、家具の都府だ。旭川家具は、ここから世界へ挑戦する。旭川家具は、ここから世界へ挑戦する。旭川家具は、ここから世界へ挑戦する。」

旭川家具は、ここから世界へ挑戦する。旭川家具は、ここから世界へ挑戦する。旭川家具は、ここから世界へ挑戦する。



ミラノ市民を中心に、6日間で2800人が訪れた旭川家具のミラノ展

家具新聞

2003年 5月25日(日曜日)第1389号
(平成15年)

シックハウス対策で統一ラベル貼付へ

新年度事業の柱に

輸入製品には試験機関の証明書必要

全家具連総会で決定

長原 實氏が新会長に就任

社団法人家具工業連合会、4月22日、東京・有明コロシアムで定例会議を開催。長原 實氏が新会長に就任した。

長原氏は、家具業界の発展と消費者の安全を最優先とし、シックハウス対策として、輸入製品の試験機関からの証明書取得を義務化する方針を決定した。

平成15年 4月17日(2003年) 北海道新聞
ミラノ発世界へ 旭川家具の挑戦

平成15年 5月25日(2003年) 家具新聞
シックハウス対策で統一ラベル貼付へ
新年度事業の柱に

旭川家具工業協同組合

などが主催する「第四十九回旭川家具木工祭 M AKROS」が二日から六日まで、旭川家具センター(永山一十丁目)で開かれる。

旭川地域で生産された新作家具、クラフトを一堂に展示し、道内外の市場に広く紹介して、販路の拡大を図ると同時に、出品する各社の商品開拓の意欲と技術を高め合おうというイベント。三十一社、一グループが自信を。

ミラノ見本市出品作品も

旭川家具木工祭あす開幕

旭川家具木工祭あす開幕

平成15年 7月1日(2003年) あさひかわ新聞
ミラノ見本市出品作品も 旭川家具木工祭あす開幕

生活する女性の視点キマリ

商品化へ家具17点
来年3月展示発表

道央地区の女性からアイデアを募集していた旭川家具工業協同組合の「こんな家具ほしい！プロジェクト（こんぷり）」で、商品化する作品十七点が二十八日、決まった。旭川家具メーカーが製作し、来年三月に旭川で展示発表する。

[illegible]

商品化するアイデア家具
17作品を選んだ委員会

十一月七日に札幌、同
二十八日には旭川に発案
から順次、試作に入る。

平成15年10月29日（2003年） 北海道新聞
生活する女性の視点キラリ

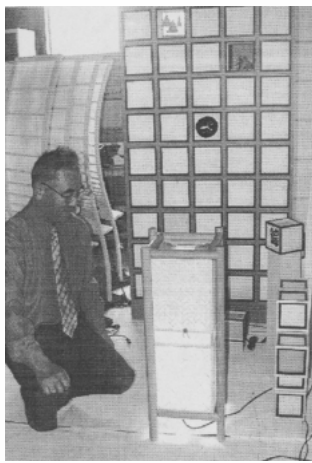
障子テーマに
家具やオブジェ

手仕事の技術生かし70点

旭川建具事業協同組合に加盟する4社でつくる、木の創造会が主催する「障子創造展」が5月26日から、宮下川のデザインギャラリーで開かれる。長年不況で建具業界全体の景気が低迷する中、家の和室などに使われている障子をベースに、組子の模様を生かした家具やオブジェで、手仕事の魅力と木の温かさを伝える。

旭川の建具業界は、ビーク時の昭和40年代には約70社あり、障子やふすまの打打ちや補修などの細かい作業を引き受けていた。しかし、高度成長の発展とともに旭川に大量生産の体制が整うと、その数も徐々に減っていった。

展示会は建具の奥深さを、その技術を見直し、それを活かすことを目的として企画した。テーマに



なった障子は、平安時代から茶室や居間の仕切りとして普及し、和の文

化の象徴として思っている。気温差が大きい旭川
の気候を考慮しながら、
避暑や温気とりなど本
来の役目と機能性を両
立した約70点を展示す
る。併組部分や箱状に
して小物を置いたり、色
を塗り込んだ紙を入れ
て、一枚の絵のように
校の工夫がこれとされ
ている。

木々、川々の作業で
た見、障子紙のような
着る、口たてた技を最大
限に生かした。

同会の呼びかけ人の
石川健男、工業検査
4代表、石川邦三さん
は「今回の展示をテッ
プにして、新しい発想や
素材をどんどん取り入
れ、ユザリと活用して
いけば」と話している。
30日まで。

角度や方向を自在に
変えられる仕切りや、0
・2ミリの薄さまで削っ
障子の相手をデザイン
に生かした作品の数々

障子の粗子をデザインに生かした作品の数々

ナー
ジエ

平成16年5月25日(2004年) ライナーネットワーク
障子テーマに家具やオブジェ
手仕事の技術生かし70点

児童福祉施設で建具補修奉仕

旭川建具協同組合青年部

旭川建員協同組合(三浦邦昭理事長)青年部大浅利幸部長のメンバーが十日、市内の児童施設四カ所で建員との修養奉仕を行った。写真。日に制定。業界の振興と会



員議の向を自見して翌年この日国一斉に慰撫などして奉仕活動を始め、旭川でも平成二年から、組合青年部を中心に毎年市内、近郊の施設活動を行っている。

この日は十三人が、手に分れて東京・北見児童センター、善光住民児童センター、北見童園の四方で作業を行った。このうち、恵部住民センターに併設されている東光児童センター・東光

五ノ川では、大滝部長はめんものメンバースは工具を持って訪れ、密着外し滑りかき悪いなど、ドアの開閉はスナハ大が任意でエニョク員会（監理）部分を中心とめて開けたり、盆の交換などの作業をした。大滝部長は「昨年は昨年は、該施設がなかったため、今年は一年ぶりの実施となり、また、青年部外りのメンバーにも応援してもらっている」と話していた。

[illegible]

平成16年4月13日（2004年）あさひかわ新聞
 児童福祉施設で建具補修奉仕
 旭川建具協同組合青年部

“木彫り熊”の匠 木彫家・平塚賢智さんの個展



平塚さんが木彫り熊を制作し始めたのは、十四歳の時。市内近文で熊狩りの名手と言われ、熊の木彫りを作っていたライヌと云われ、熊の松井梅太郎の手裁きで憧れ、木彫家の道を志しました。また、高い技術が認められ昭和六十一年には黄綬褒章、平成三年には勲六等瑞章を褒賞しています。

展示されている作品は、木登りをしている微笑ましい姿の親子熊や、険しい岩を荒々しくよじ登る三頭の兄弟熊など、一本の丸太を彫って仕上げた躍動感あふれる作品約四十点が展示されています。

平家さんには「親子愛が希薄に育ちあれた娘の姿を思い描き、大杉の熊を作りだした。人と人のつながりや希薄にながれつつの中ですぐ、見ていたた作品を通じ、心の豊かさを各々度見つめ直してほしいです」と話しています。

開館時間は、午前九時半から午後四時半。入館料は、小・中学生は無料、高校生以上は500円です。問い合わせは、土庫市公益展示センター（電話1-33320-0）へ。お昼休みなどを利用して来館するのはいかがでしょうか。

平成16年8月10日（2004年） あさひかわ新聞
“木彫り熊”の匠 木彫家・平塚賢智さんの個展

けいざい
新地図

[illegible]

道内各地から集まった窯元の作品を熱心に見る女性たち

旭川で陶芸フェス開幕

旭川に親な道内各地の窯元が、旭川市に集まり、旭川陶芸フェスティバル（旭川やまの協会の主催）が二十五日、旭川市の旭川地場産業振興センターで始まった。

毎年開かれており、八回目の今年は過去最多の百三十八の窯元が出品した。趣向を凝らした皿、茶わん、カップなど、展示販売したほか、市による「ろうこん」演劇も行われた。

会場には多くの市民が詰めかけ、特に、陶芸コナーが親子連れの人気を呼んで、二十六日（午前十一時午後五時）まで、（上村）

旭川家具工業協組

美林 未来に残したい

【東川】美しい森林を将来に残そう。旭川市内や近郊の家賃メーカでつくる旭川家具工業協同組合（会長実業家、三十九世）の植樹事業「ドンクリの森プロジェクト」の植樹が二十四日、東川町内の私林で行われ、秋空の下、関係者や家族らがミズナラ一千本の植樹に汗を流した。

（西条恵 邸）

同事業は家具材を供給してくれる森林への「恩返し」として、今年から

材樹。実際に家具材として使われる広葉樹。その多くは、一、二百年かかるが、長原製材所の理事長は「自然保護の基盤である森林を世界に誇るために、少しは我慢と辛抱」と話す。

献樹には、同社が加盟するうち十八社が約百七十人が参加した。一畝の広さの用地に、定められた樹に一定の距離を隔てられたら、指定の樹を、参加者たちはそれぞれ、丁寧に掘り返して、長さ三十一センチの苗木を丁寧に植えていった。

ミズナラの苗2千本
「恩返し」に植樹

四年間で毎年二千本ずつ計八千本を植える計画。ミズナラは世界中で家具

「嵐山」8作家の作品一堂に
旭川バレスホテルに
展示コーナーお目見え

ロビーで嵐山散歩を楽しんだ旭川の。陶芸の界の魅力を市内外の人に広く知ってもらおうと、旭川バレスホテル・旭川市7-1の、このロビーに地元作家の作品を常設展示するコーナーが登場した。

同ホテルの和食レストラン「嵐山」のリニューアルオープンに合わせて設けられたもので、開張説明を兼ねた誘った白を願がひとまわし目引く。

展示されているのは、市内旭園に拠点を置いて活動している陶芸家、木工フラット、ガラス工芸作家8人の作品の拠点。陶芸の界は、観光を所とすつて、るが、中心部で使われる作品が、一室に揃えられる事が望ましいものの、はなはだ希である。

「嵐山」の展示する作家は、地元の人にも知られない人と、同ホテル・作品は常設展示に入れた、多岐にわたる作品を、せていく予定という。

DATA Eye04

輸入に対抗 国内主産地の新製品一堂に

旭川が主導 全国家具展

【旭川】旭川家具業界の首脳で、全国の主な国産家具の産地が一堂に会し、新商品などを展示する初の「旭川家具展」が十一月二十四日、横浜市のコンベンションセンター「パシフィコ横浜」で開かれる。これまで各産地は「ライバル同士」だったが、アジアからの輸入家具に対抗するため、力を合わせて木製家具の良さをPRする。産地主導による国産家具のみの大規模な展示会は初めてという。

旭川家具工業協同組合の長原理事長が二〇〇三年に全国家具工業連合会会長に就任して以来、「各産地が協力できる環境を整った」として全国を回って協力を要請し、実現にこぎつけた。工業統計によると、中国や東南アジアからの輸入家具に押され、〇二年の全国家具製造出荷額は九千九百二十三億円と最盛期の一九九一年に比べほぼ半減。家具メーカーの淘汰が進み、輸入家具との競争時代を迎えている。

展示会は単に家具を陳列するだけでなく、照明やカーテンなどを組み合わせた

初の試み 20道県200社見込む

せて部屋のような演出をして展示する。長原会長は「家具を用いた生活空間を提案すること、低価格の輸入品では出せない国産家具の良さを伝えたい」と話す。併せて、各産地の特徴的な家具の出品も予定している。デザインは、六月に開催される「国産家具デザインフェア旭川」の入賞作品を展示する。四月下旬から出展者を募集するが、既に静岡、福岡が地域の組合単位で協力を表明。愛知、広島、岐阜などもメーカーごとに出品を検討している。最終的には約二十道県から二百社ほどが参加する見込み。

平成17年4月13日(2005年) 北海道新聞
旭川が主導 全国家具展

旭川家具の歴史はアイヌ民族の伝統文化と言われ、一八九七年(明治三十年)にアイヌ民族の木彫細工品を販売する店が市内で開店した記録が残っている。今回の源流展は、旭川の歴史を踏まえ伝統的な木彫りのクマなどを木彫作品として再評価しようという試み。会場には、旭川のクマ彫りの祖と言われる松井梅太郎(一九〇一―一九九

作品でたどる
木彫りの源流
旭川の木彫りの歴史や現代の木彫作品などを紹介する旭川市主催の初の「旭川木彫りの源流展」が市内の上川倉庫一号楼(宮下二)で開かれている。十九日まで。



木彫りのクマなど旭川ゆかりの木彫作品が並ぶ「旭川木彫りの源流展」
年)や、彫刻家砂澤ヒッキー(一九三―八九年)、旭川在住の現代作家など四十人、戦前の作家による生木に命をかけたクマや、若い世代が手がけた丸みのあるクマまで多彩な木彫作品が見る人を魅了させている。入場無料。

平成17年6月17日(2005年) 北海道新聞
作品でたどる木彫りの源流

旭川家具

10点を国際見本市に

ブランド
確立推進委
ドイツ人招き選ぶ

旭川家具の国際市場への売り込みを目指す「旭川家具ブランド確立推進委員会」の商品開発専門部会が三十日、旭川市永山の旭川家具センターで開かれ、来年一月にドイツ・ケルンで開かれる世界最大級の国際家具見本市「メッセ」に出展する十作品を決めた。

(森井泰博)



高級家具販売店社長らを招き、メッセへの出展作品を決めた部会

現地で十分通じるものを出品しようと、部会にドイツの最高級家具販売店の社長ら二人を招いた。あらかじめ部会が選んだ「国際家具デザインフェア旭川」(エドワード・A)の入賞入選作品に、ドイツ人の二人が二十九日に旭川家具の各メーカーを回った際に目にした家具を加えた十六点ものがあった。ドイツから参加した二人は「もう少し日本的なものをあっても良かった」

その結果、今年のIFAで最高のゴールドリフ賞に輝いた棚や、入選作品の高さを自在に変えられるテーブルなどをはじめに、三点、ベンチ、二点、テーブル、棚、収納箱、小物入れ、スツール各二点をメッセに出すことになった。ただ、二人の助言を受け、一部の作品は合板を無垢材に変えたり、継ぎ目の金具を変えたりすることにした。

自信を持って出展してほしい」と話していた。同部会は今後、メッセ会場のレファウットが決まり次第、この十点のほかにも出品するかどうかを決め、十一月月上旬に作品をドイツに向けて発送する。

平成17年8月31日(2005年) 北海道新聞
旭川家具
10点を国際見本市(ケルンメッセ)に

創立50周年記念資料

『北の大地に育まれた「木と土」の創成から次代へ・・・』

発行 旭川市工芸センター 平成18年3月

〒078-8801 旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内

TEL 0166-66-1770 FAX 0166-66-1776

URL：http：// www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/kougeicenter/index.html

E－mail：kougeicenter@city.asahikawa.hokkaido.jp